

# 整備概要

昼飯大塚古墳は、平成21年度から4ヶ年をかけて保存整備をします。壊れた古墳の墳丘を修復し、あるところは築造当時の姿に戻して歴史公園として整備するものです。

今回の掘削作業はこれからの保存整備工事に先立ち、墳丘表面の土を取り除くものです。浅いところや深く掘り返されたところなどさまざまですが、葺石や埴輪列など古墳に伴う遺構も確認されました。一方、墳丘が大きく削り取られたところでは、古墳の盛土を観察できました。ここでは針貫入試験などの方法により、盛土の強度や密度などを調べ、今後の保存整備につながる重要な情報を得ています。A区からE区までの概要は次のとおりです。

**A区**：前方部2段目斜面に当たる調査区で、埴輪列と葺石を確認した。



**葺石**  
前方部西面の2段目斜面の葺石の一部を検出した。検出延長は3mを測る。



**埴輪列**  
出土した埴輪列は3個体で、2段目テラスの埴輪列とも推定されるが、復元位置よりも北に1.6mずれている。ただ、第7トレンチで確認した埴輪列と同じ高さである。



**土採り坑**  
昭和初期頃に掘り返されたと考えられる土採り坑か。これらによって前方部が大きく欠損したと考えられる。



**土採り坑から出土したビール瓶など**  
・大日本ビールのビール瓶  
・『赤坂』『口島屋』通い徳利  
・アルマイトの弁当箱

**B区**：前方部上段は攪乱のみを検出し、埴輪列や葺石は確認できなかった。

**C区**：前方部西面のテラス部分は、E、F、G、Hのグリッドライン上に設けたトレンチを掘削した。各トレンチの遺構検出面の高さは設計図に反映されている。



Eライン Fライン Gライン

**D区**：かつて宅地であったところで盛土が大きく削りとられているが、盛土の壁面観察ができる。盛土の圧縮強度を測るための針貫入試験や、レーザー三次元計測を行った。



針貫入試験 写真撮影 レーザー三次元計測

**E区**：竹を燃やすために掘削された竪穴を完掘した。



古墳盛土断面写真 攪乱坑

